

## シャープ堺工場を活用した 大規模な AI データセンターの構築について

～敷地面積約 44 万平方メートル、受電容量約 150 メガワット規模のデータセンターを  
2025 年中に本格稼働へ～

ソフトバンク株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員 兼 CEO：宮川潤一、以下「ソフトバンク」）とシャープ株式会社（本社：大阪府堺市、代表取締役 社長執行役員 兼 CEO：呉柏勲、以下「シャープ」）は、堺市にあるシャープの液晶パネル工場関連（以下「シャープ堺工場」）の土地および建物を活用した大規模な AI（人工知能）データセンターの構築に向けて、基本合意書を締結しました。ソフトバンクは、シャープ堺工場の敷地面積全体の約 6 割に当たる約 44 万平方メートルの敷地と延べ床面積約 75 万平方メートルの建物に、受電容量が約 150 メガワット規模のデータセンターを構築して、2025 年中の本格稼働を目指します。将来的には、受電容量を 400 メガワット超の規模まで拡大する見込みです。

ソフトバンクとシャープは、シャープ堺工場を活用して、AI データセンターを構築することについて、2024 年 1 月から協議を進めてきました。ソフトバンクは、シャープ堺工場の土地や建物、電源設備、冷却設備などを譲り受けることで、データセンターの早期構築を図り、2024 年秋ごろに着工して 2025 年中に本格稼働させることを目指します。このデータセンターは、生成 AI の開発およびその他の AI 関連事業に活用する他、社外からのさまざまな利用ニーズに応えるため、大学や研究機関、企業などに幅広く提供していく予定です。また、環境負荷が低いデータセンターとして、クリーンエネルギーの活用を検討する予定です。

今回の合意を基に、今後ソフトバンクとシャープは AI 関連事業における連携を検討していきます。



【左】 シャープ堺工場内のデータセンター設置予定エリア（赤枠）  
【右】 データセンター設置予定エリア内の液晶パネル工場外観

- SoftBank およびソフトバンクの名称、ロゴは、日本国およびその他の国におけるソフトバンクグループ株式会社の登録商標または商標です。
- その他、このプレスリリースに記載されている会社名および製品・サービス名は各社の登録商標または商標です。